

日銀 – 現状維持を決定、マイナス金利効果見極め –

<政策の現状維持を決定>

日銀は4月28日の金融政策決定会合を行い、2月に導入した「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」の効果を見極めるため追加緩和を見送り、金融政策の現状維持を決定しました。

政策目標とする物価上昇2%の達成時期は、従来の「2017年度前半」から「2017年度中」へと再度先送りされました。

<円高・株安へ>

市場では今回の政策決定会合で追加緩和が実施されるとの見方が強まっていたことから、足元では円安米ドル高が進行し、日本株も上昇傾向にありました。

そのため、金融政策の現状維持が発表された直後、為替市場では一気に2円以上も円高米ドル安が進み、15時現在では前日比2円43銭円高となる1米ドル = 108.88円となっています。また、日経平均株価は前日比▲624.44円安の16,666.05円まで下落しました。

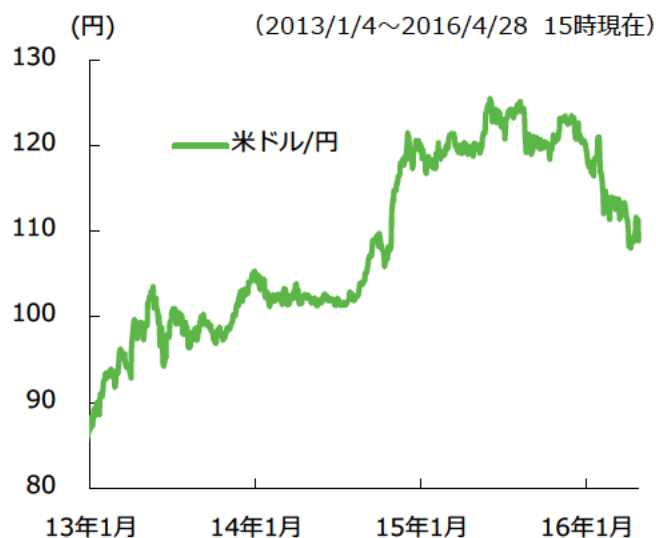
<今後の見通し>

日銀の追加緩和は今回は見送られたものの、低迷する国内経済やデフレに対する懸念が再燃しており、今後も追加緩和期待は継続すると予想されます。

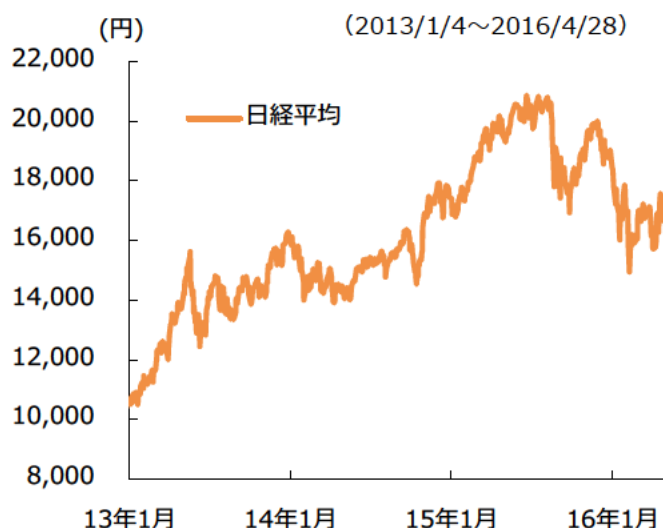
一方、米国では昨日のFOMCでは利上げが見送られたものの、FRBは政策金利を引き上げる方針を維持しており、政策金利は緩やかなペースで引き上げられていく見込みです。

日米の金融政策の方向性の違いから米ドル高円安傾向が続くと見込まれます。

<米ドル/円の推移>



<日経平均の推移>



出所：Bloomberg